

医療観察法病棟における

“治療共同体” Therapeutic Community
～病棟マネジメントの実際とその課題～

国立精神・神経医療研究センター病院

医療観察法病棟 8病棟 看護師

津田哲也

本日の講義

第1部 由来から考える治療共同体

第2部 病棟マネージメントの
実際とその課題

第3部 書籍・学会・学びの場の紹介

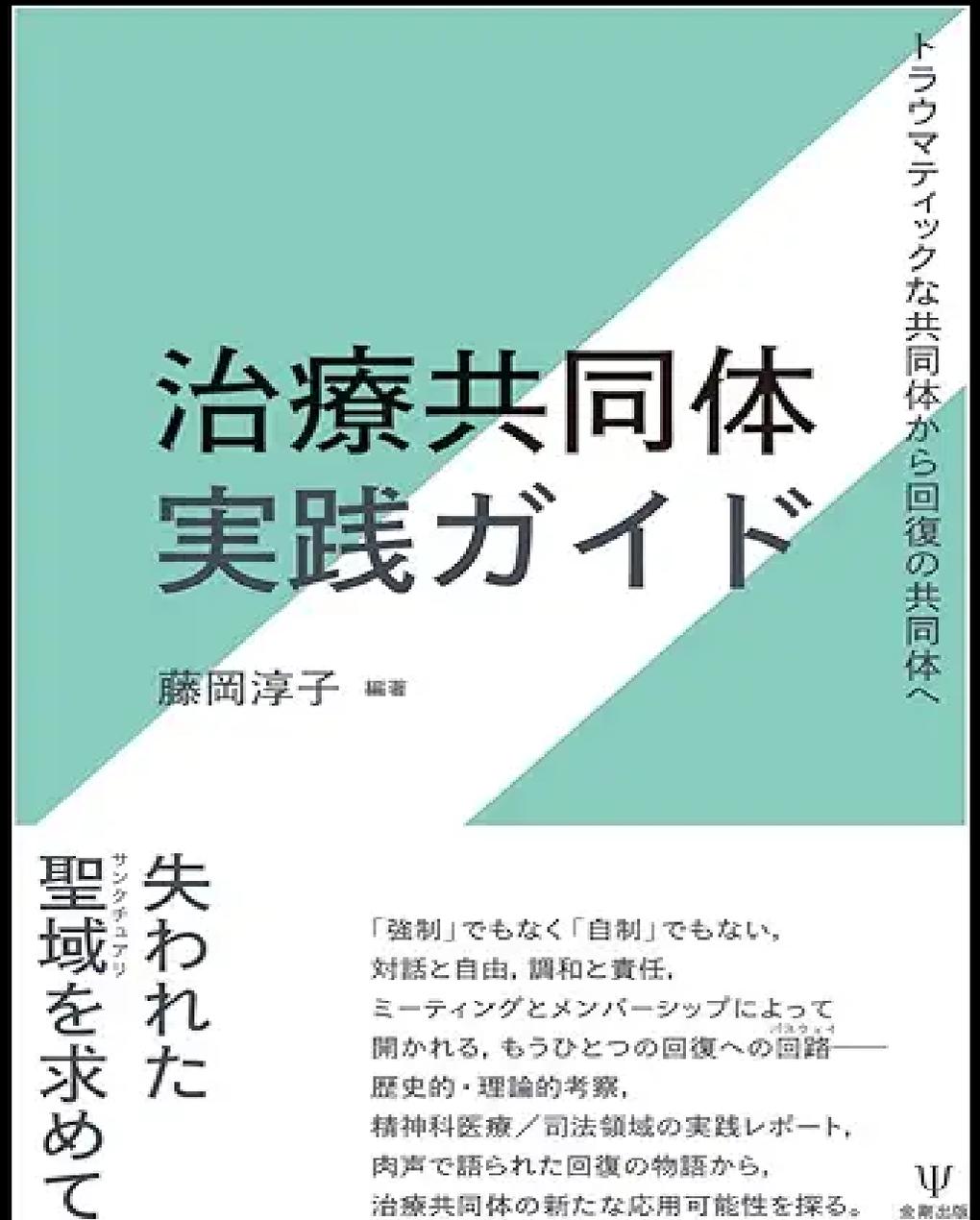
第1部

由来から考える治療共同体

書籍

治療共同体の歴史や
現状が、最もわかり
やすくまとめられて
いる

編者：藤岡淳子（2019）金剛出版



書籍

- ・ 集団精神療法と治療共同体の発展はつながりが深い
- ・ 鈴木純一は、千葉にある海上寮診療所で「治療共同体」実践を1980年代に行った。

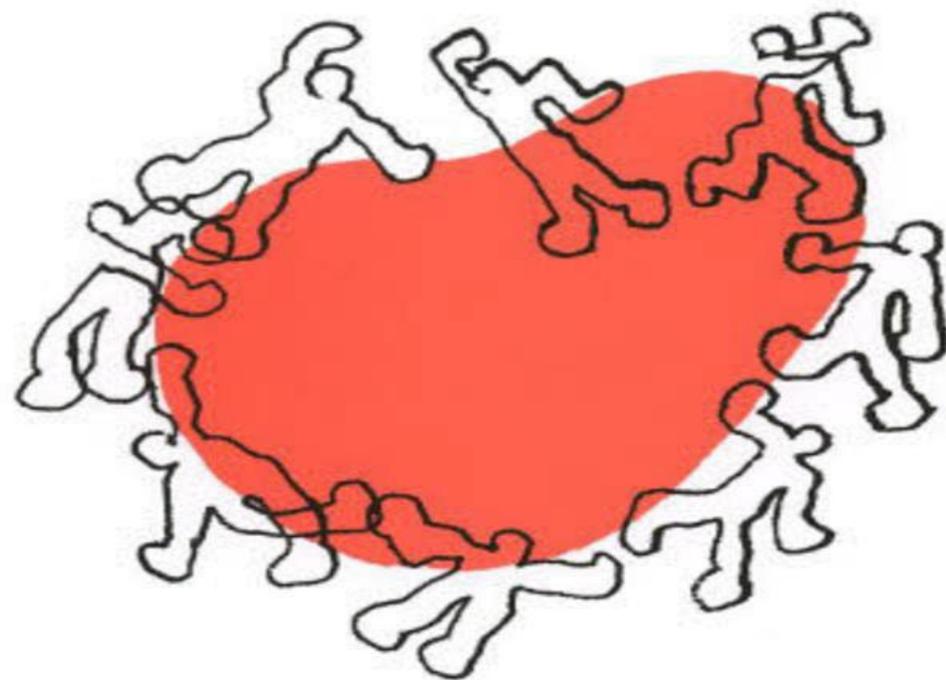
鈴木純一（2014） 金剛出版

集団精神療法

理論と実際

鈴木純一

Suzuki Junichi



書籍

第1章「集団精神療法の歴史と広がり」の中に、武井麻子氏によって治療共同体についての詳細が記載されている

創元社 (2017)

集団精神療法の 実践事例 30

グループ臨床の多様な展開

日本集団精神療法学会編集委員会

【監修】

藤 信子・西村 馨・樋掛忠彦

【編】



若手の挑戦、ベテランの知恵

〈集団のこころの動きを活用した治療がここに〉

長年の蓄積から集まった、現場のニーズに合わせたグループの実例

臨床心理士

精神科医

看護師

精神保健福祉士

さまざまな領域で活躍する方に

文献

「司法精神医療等人材養成研修会 教材集」
P178

- IV. 指定入院医療機関における医療
 - 2. 指定入院医療機関における多職種協働業務
(宮本真巳／下里誠二)

文献

「医療観察法と多職種チームの可能性」

臨床精神医学, 38 (5)

宮本真巳 (2009)

由来から考える治療共同体

イギリスの系譜

- ・ マクスウェル・ジョーンズ
- ・ トム・メイン
- ・ ロバート・ラパポート

アメリカの系譜

- ・ AA（アルコホーリクスアノニマス）の原形、オクスフォードグループを発端とする

イギリスの系譜

マクスウェル・ジョーンズ

- 第二次世界大戦前後。
- 神経症を発症した兵士たちへの教育。

イギリスの系譜

マクスウェル・ジョーンズ

「講義の反応は殆どないのに、患者同士の話し合いや横のつながりが治療的に働いている事に気づいた」ジョーンズは、**患者・看護師・医師を巻き込む「コミュニティー・ミーティング」**を行い、日常生活の問題や病棟の運営などについて話し合う手法を取った。

イギリスの系譜

マクスウェル・ジョーンズ

職員と患者の立場はコミュニティ・ミーティングにおいては**対等**で、問題があって直面化を受ける際は職員もそれを免れない一方、**患者・職員という立場に関係なく**、出来る限り自由に感情を表現する。

権威的な治療関係の排除

イギリスの系譜 トム・メイン

- ・ **病棟を一つのコミュニティーと考え**、そこで起きるいろいろな問題行動、人間関係の問題を、コミュニティーの解決すべきものとした。
- ・ いろいろな小グループ、大グループによる活動を奨励し、**患者自らが考え活動グループを作る**ことに重点を置いた
- ・ “Total Culture of Inquiry”、つまり、**全体で、なぜこのようなことが起こるか**を考えようという文化を設定した。

イギリスの系譜

ロバート・ラパポート

【治療共同体の中核概念】

①民主性 (democratization)

対等

②許容性 (permissiveness)

受容

③共同性 (communalism)

責任

④現実の直面化 (reality confrontation)

直面

宮本 (2009)

アメリカの系譜

- ・アルコール依存症であったビルとボブの出会いによって生まれたAA（アルコホーリクス・アノニマス）の前身「オクスフォード・グループ」。
- ・シナノンと呼ばれるコミュニティ。1958年に始まり、1991に解散。このシナノン・グループと呼ばれるセルフヘルプの方法は、今でも刑務所や薬物依存症の回復施設で効果を発している。

当事者間におけるピアな関係性

由来から考える治療共同体

まとめ

- ① 医師が権威的な立場にいることから降りるということ
- ② 患者・スタッフが対等な立場を取ろうと模索すること
- ③ 患者同士の対等さ、いわゆる“ピアな関係”の中に、回復への鍵があるということ
- ④ スタッフ間の対等さをも、模索すること
- ⑤ スタッフは、管理・観察者としてそこにいるのではなく、患者のピアな関係の促進を担う役割もあるということ

治療共同体

here and now “今、ここで”

患者間における
対等さ

スタッフと
患者間における
対等さ

スタッフ間
における対
等さ

CONTENTよりもPROCESSを重視する

“共にいる”

第2部 病棟マネージメントの 実際とその課題

治療共同体 中核概念

対等：対等で民主的な人間関係

寛容：他者への言動への寛容さ

責任：自律的で責任ある行動

直面：厳しい現実の直面

(宮本, 2009)

病棟 “管理” と治療共同体

異和感



管理という言葉と治療共同体という言葉の、しっくりいかない感じ

“管理”

- ・ 基準からはずれないよう全体を統制・管轄すること
- ・ 権限によって支配すること

“マネージメント”

- ・人・物・金・時間などの使用法を最善にし、うまく物事を運営し、維持・発展させていくこと

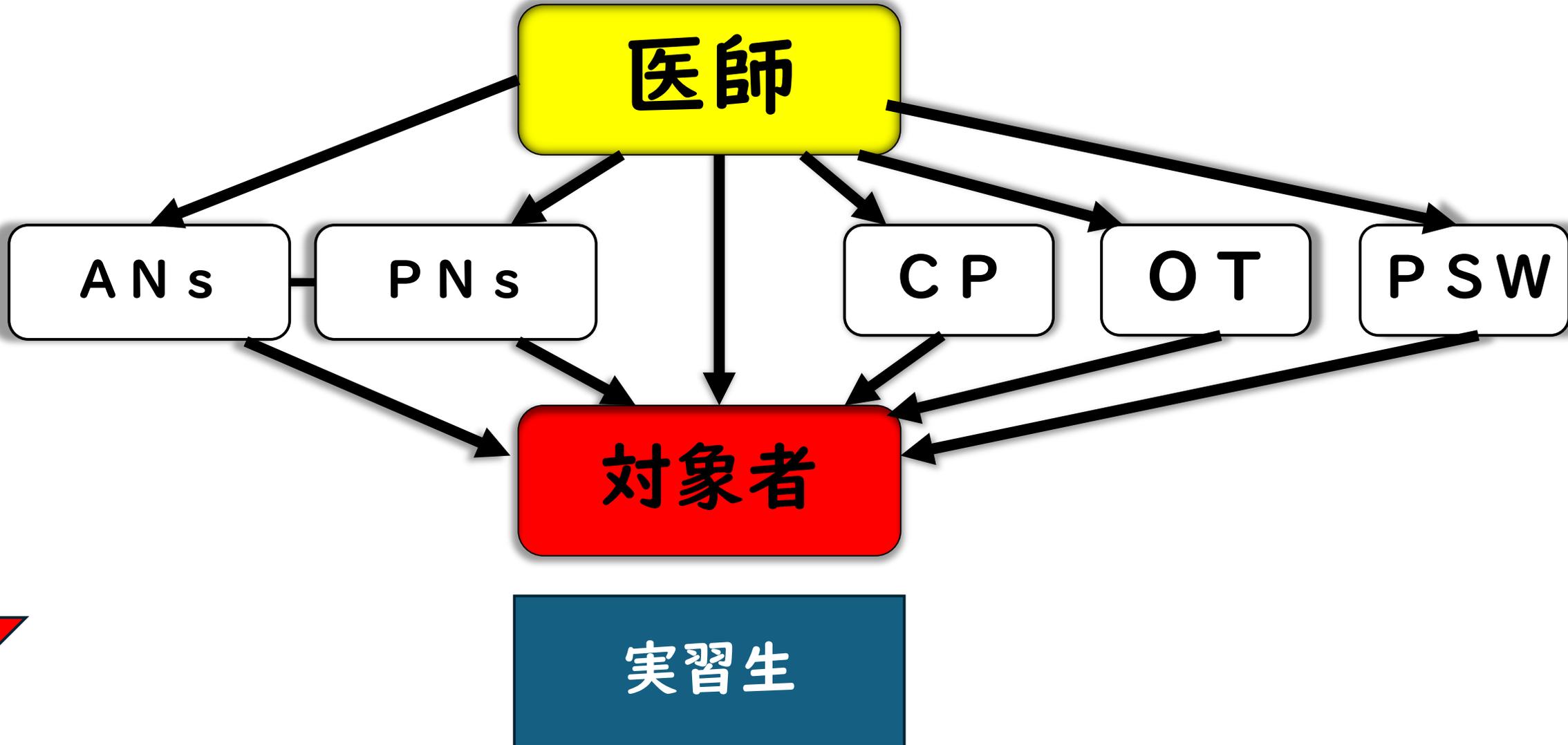
調整

コーディネート

×医療観察法病棟における
“病棟**管理**”と“治療共同体”

◎医療観察法病棟における
“病棟**マネージメント**”と
“治療共同体”

医師中心の医療モデル



医師中心の医療モデルの特徴

【メリット】

- ・システムが明確で、治療目標の設定や医療の提供がスムーズかつ効率的に行える。

【デメリット】

- ・対象者は医療を提供される側となり、自身の治療でありながら受身的になりやすい。
- ・指示システムが一方通行であるために、「おかしい」と思った治療のあり方について、コメディカルは意見を出せない、あるいは出さない。
- ・コメディカルの対象者に対する、「それは先生に聞いてください」というような態度の横行。

治療共同体

対等：対等で民主的な人間関係

寛容：他者への言動への寛容さ

責任：自律的で責任ある行動

直面：厳しい現実の直面

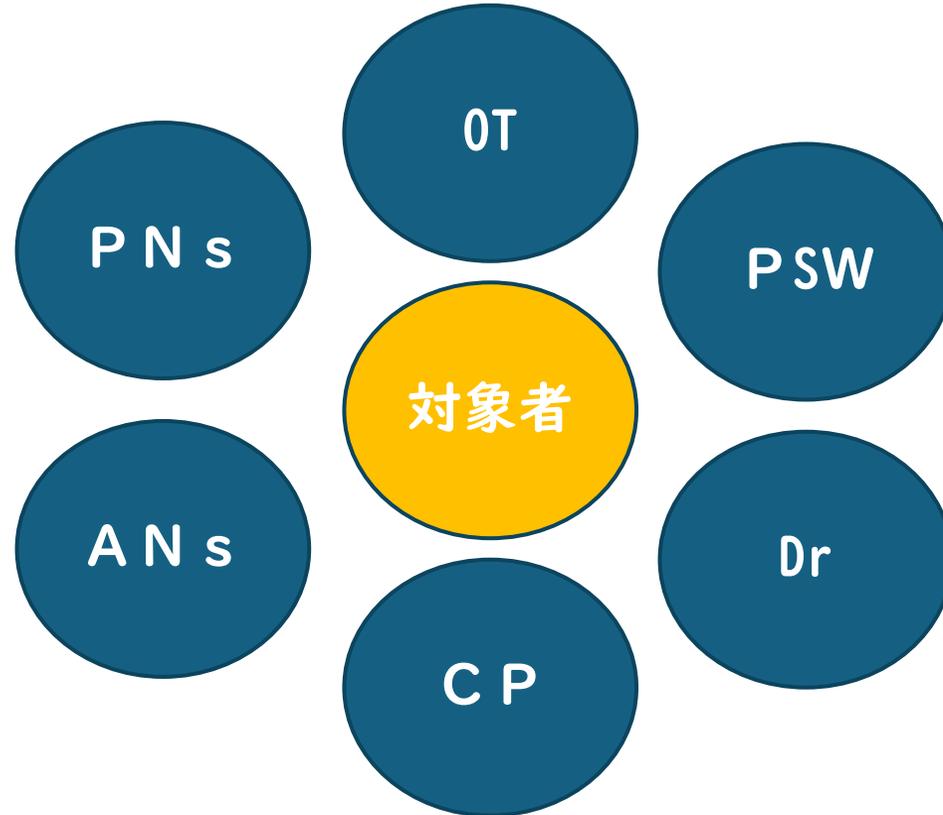
治療共同体 MDTを例に

対等

対等で民主的
な人間関係

寛容

他者への言動へ
の寛容さ



責任

自律的で責任
ある行動

直面

厳しい現実
の直面

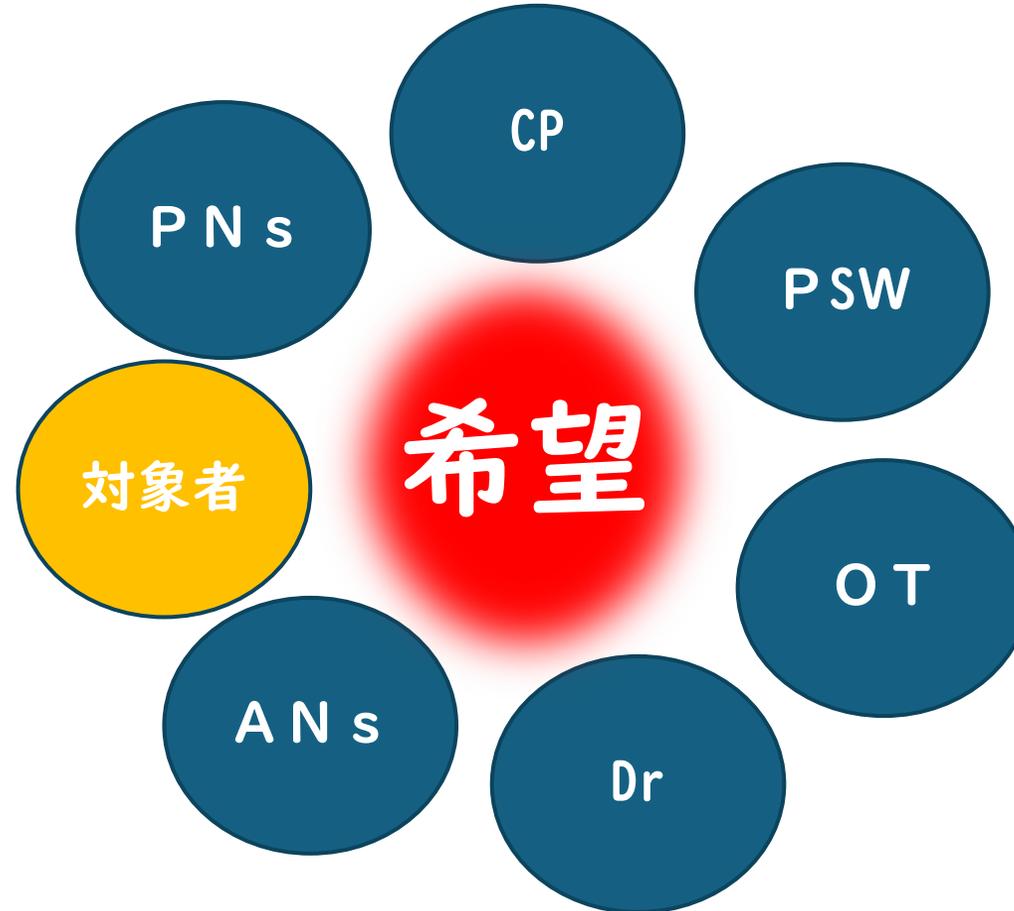
治療共同体 MDTを例に

対等

対等で民主的
な人間関係

寛容

他者への言動へ
の寛容さ



責任

自律的で責任
ある行動

直面

厳しい現実
の直面

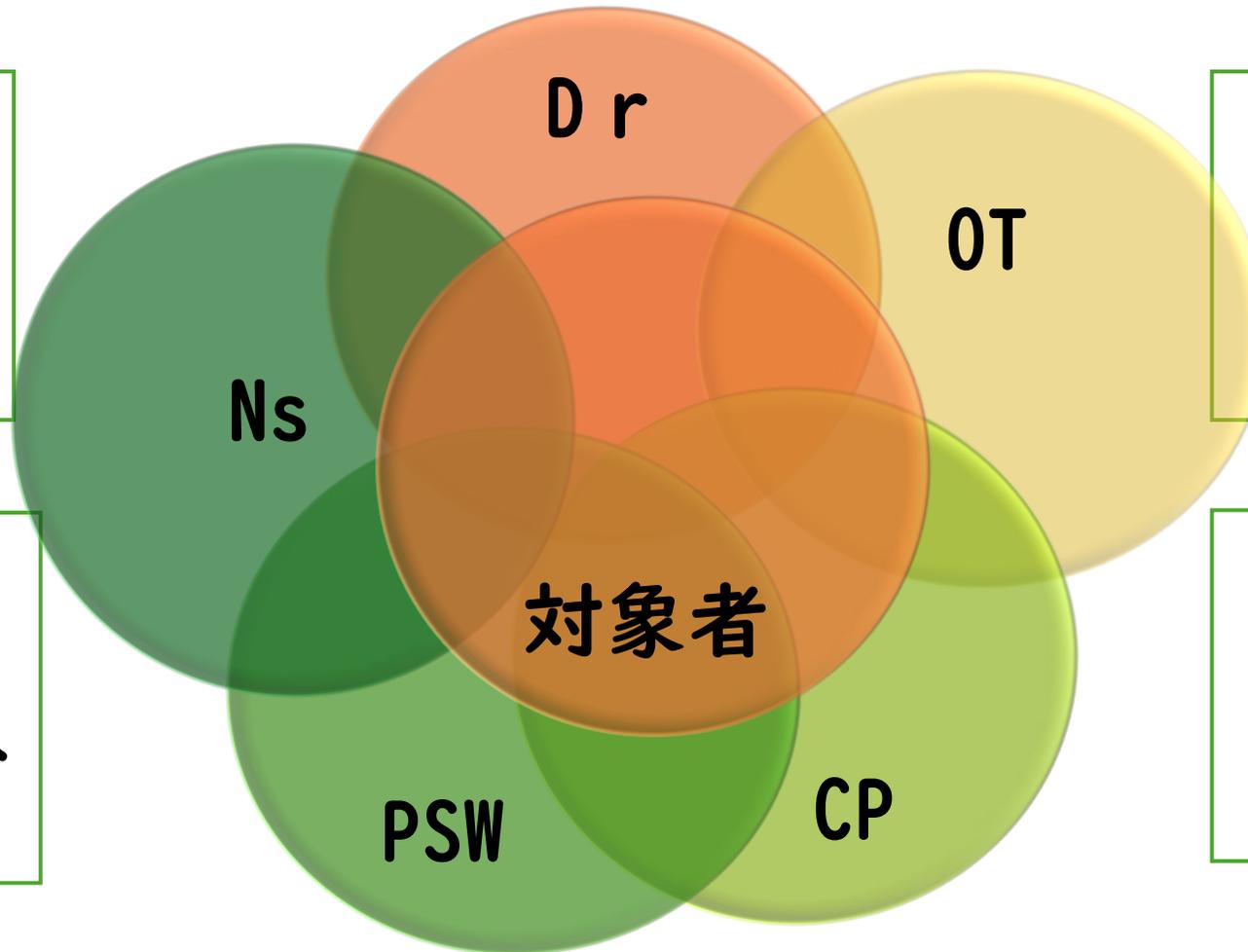
治療共同体 MDTを例に

対等

対等で民主的
な人間関係

寛容

他者への言動へ
の寛容さ



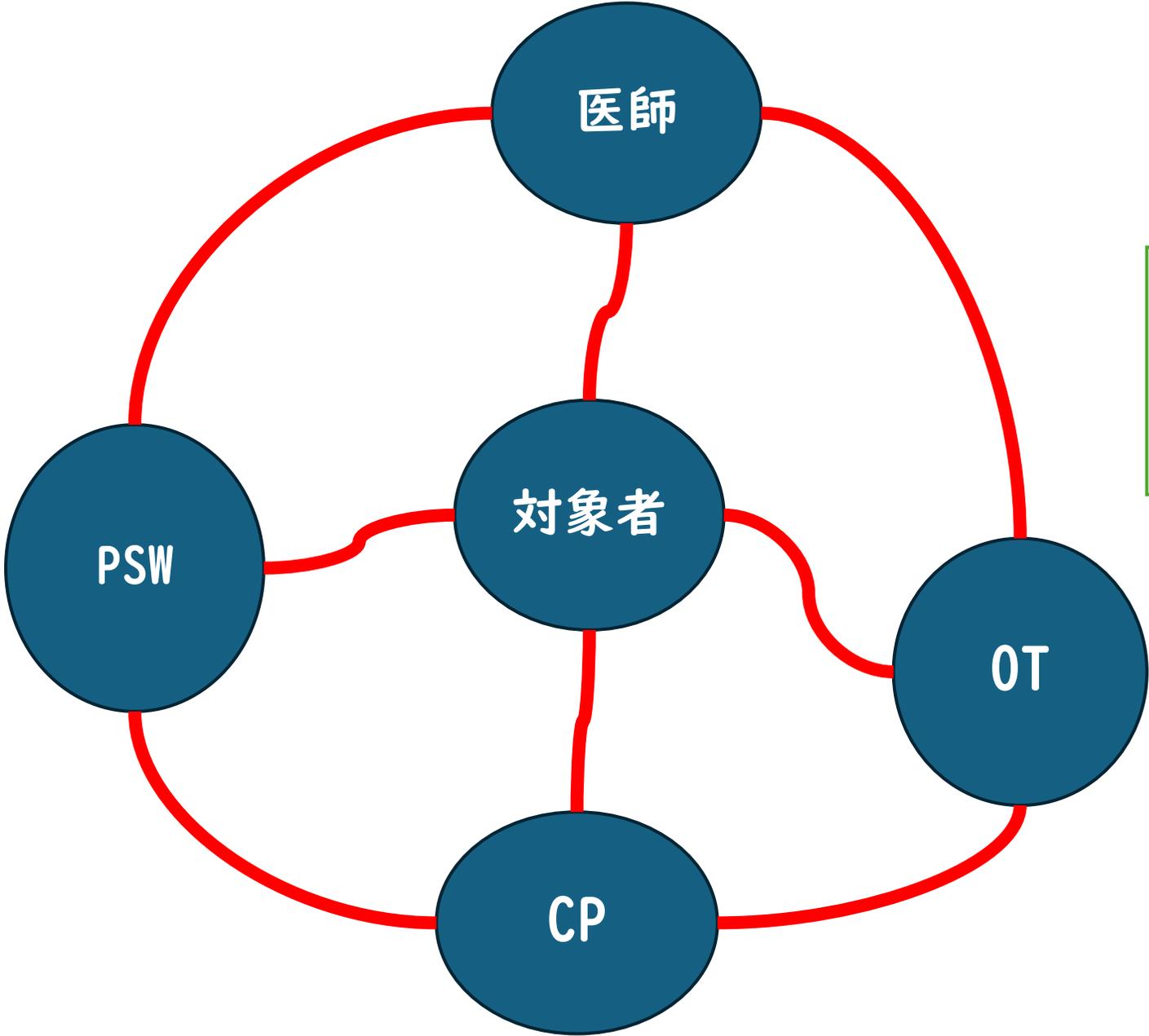
責任

自律的で責任
ある行動

直面

厳しい現実
の直面

看護は血液



調整

コーディネーター

医療観察法病棟における“治療共同体” Therapeutic Community

～病棟マネージメントの実際とその課題～

1. MDT会議／CPA会議のあり方
2. コミュニティ・ミーティングのあり方
3. コロナ明けの家族会の様子から
4. 余暇プログラム
5. スマホの導入に向かって

①MDT会議／CPA会議

【状況】

対象者抜きでのスタッフによる事前打ち合わせ中心の会議となりがち

【課題】

当事者不在ということが、治療共同体の「対等さ」に引っかかる

【方向性】

やむを得ずスタッフのみで話すこともあるが、基本としては、対象者も最初から入っていくということを、入院時から対象者へ伝えていく。地域への説明も必要。

MDT会議では、対象者に司会をやってもらったり、CPA会議では自身の病状の説明をパワーポで対象者にやってもらったりすることもかつてあった。

② コミュニティ・ミーティング

【状況・課題】

- ・学校のように司会者がホワイトボードの横に立ち、対象者は椅子に座って聞いているという構造上の問題。
- ・対象者は「要望をする側」で、スタッフサイドは、それを「ジャッジする側」となりがちである。
- ・司会者はスタッフのみでの運営となっている。

【方向性】

- ・治療共同体におけるコミュニティ・ミーティングは、円形で互いに顔と顔を向き合わせる形が望ましい。そのため、「緊張感」は生まれても、互いに「受容」「責任」といった態度も同時に培うことができる

③ 「家族会」の運営からみる 治療共同体の困難さ

【コロナ禍前まで】

円座になり、家族をもてなす形で質問などに応えていく様子は、“治療共同体”と言える雰囲気であった

【コロナ禍後】

スタッフは家族の円の中に入らず、外側から観察し、円に入るように促してもそのようにしない

【課題】

- ・ “治療共同体”としての態度の継承の難しさ
- ・ “制度滑り”という状態（「治療共同体実践ガイド」P57）

④余暇プログラム

【課題】

- ・対象者が主体となって運営にあたるプログラムで、スタッフもその運営の促進・サポートを行うものであり、治療共同体としての集団精神療法の大切な一面であるが、「主体的」という部分を強調するあまり、対象者から提案がない場合に、それ以上の介入を行わない。
- ・スタッフは、管理・観察者としてそこにいるのではなく、患者のピアな関係の促進を担う役割があるということの認識不足。

⑤ スマホ使用の導入に向けて

【課題】

はど置
見なに
意洩外
の漏帳
フ情報
ツ情蚊
タにを
で一つ
まの対
対象者
反対題
反問が
面ホ有
全マあ
ら、ス
かそ問
派もう
成そい
賛。と
禁た。
論
解いて
面て責
全れ「
割のい

【現状】

合とス
し「ス
話かり
でんま
みせ集
のまが
フき志
ツいき
タて有
スえ案
は考提
問題に
問緒グ
のイン
禁。イ
解つテ
ホ思一
マとミ
スい・
「ない
にはテ
者でニ
対象の
対もミ
うコマ

考えてみましょう

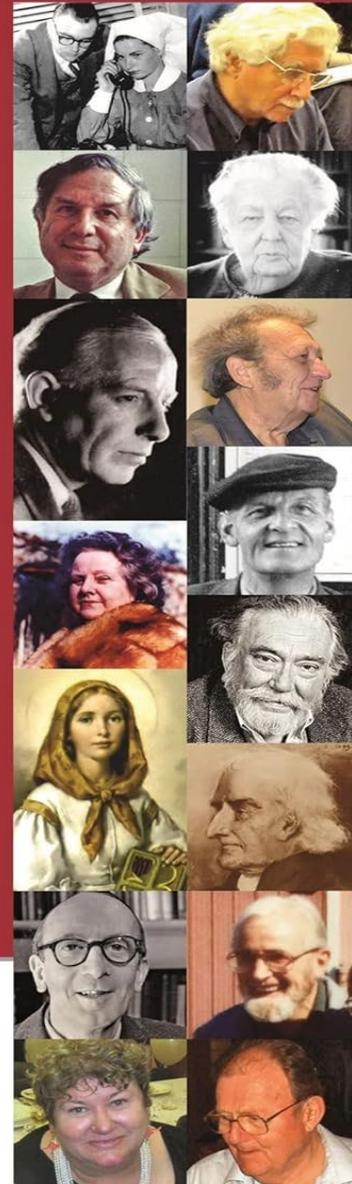
フロアに置かれている共用の冷蔵庫から、飲み物がなくなったとします。

「治療共同体」としての病棟マネジメントとしては、この問題をどのように考えていくのが理想的なのでしょうか？

第3部 書籍・学会・学びの場の紹介

書籍

英語文献であるが、治療共同体について全般的な知見を学ぶことができる。「治療共同体について考える会」のテキスト。



THE THEORY AND PRACTICE OF Democratic Therapeutic Community Treatment

STEVE PEARCE
and REX HAIGH

書籍

“治療共同体”の原点
とも言える古典中の古典。
1950年代の作品であり、
治療共同体の本質がわかる

マックスウェル・ジョーンズ
/鈴木純一訳 (1976)
岩崎学術出版社



マックスウェル・ジョーンズ — 社会精神医学の臨床
治療共同体を超えて

書籍

武井は、鈴木純一と共に海上寮で治療共同体を実践していた。精神看護教育に尽力しているが、元は東大の理系学部出身という経歴を持つ。

医学書院



書籍

看護の教科書として書かれているが、内容は病棟運営全般におよぶ。村上優先生などが治療共同体について述べられており、参考になる。

精神看護出版



学ぶ場

「治療共同体について考える会」

<https://reflective-tc.jimdofree.com/>

reflective.tc@gmail.com

世話人：川合裕子・古賀恵里子

月に一度のzoom、あるいは対面での学習会。治療共同体に関する学びを文献を通じて学び、日々の治療共同体運営にまつわる思いを分かち合う。参加は、治療共同体について関心のある方ならどの方でも参加できる

学ぶ場

「日本集団精神療法学会」

https://jagpl983.com/?page_id=19412

治療共同体の歴史と集団精神療法の歴史とはつながりがある。集団精神療法、つまり「グループ」という枠組みの中で人と人がどのように関係していくかということ全般を取り扱う。

学ぶ場

南山大学 人間関係研究センター 公開講座

<https://rci.nanzan-u.ac.jp/ninkan/training/>

直接的には、治療共同体に関係はしていないが、グループや集団における「対人関係」を、単なる知識としてではなくワークショップを通じて学ぶ。結果として、治療共同体の基盤となる態度を学ぶことができる。

長時間、ありがとうございます。